

## 第6回大阪市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 会議要旨

- 1 開催日時 平成27年3月12日(木) 14時00分～
- 2 開催場所 大阪市役所 屋上階 P1 共通会議室
- 3 出席委員 多田羅委員(専門分科会長)、石田委員(専門分科会長代理)、  
早瀬委員(保健福祉部会長)、中尾委員(保健福祉部会長代理)、  
上野谷委員(介護保険部会長)、植田委員(介護保険部会長代理)、  
池尾委員、乾委員、大槻委員、甲斐委員、後藤委員、辻委員、  
手嶋委員、中澤委員、野口委員、濱田委員、矢田貝委員
- 4 議 題
  - 1 「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)」に対するパブリック・コメント  
手続の実施結果について
  - 2 「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」(案)について
  - 3 その他
- 5 配布資料
  - 資料1 「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)」に対するパブリック・コメント  
手続の実施結果
  - 資料2 パブリック・コメント手続により寄せられた意見一覧
  - 資料3 「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)」からの修正箇所一覧
  - 資料4 「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)」からの主な修正内容

### (参考資料)

- 1 「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)」
- 2 「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)」概要版
- 3 平成27年度介護報酬改定について
- 4 第6期介護保険料について

## 6 会議要旨

### 【議題1】

- 事務局から、資料1に基づき、「パブリック・コメント手続の実施結果」について説明。
- 資料2に基づき「パブリック・コメント手続により寄せられた意見」について説明。

#### (主な意見等)

・パブリック・コメントについては非常に具体的に市民の皆様からコメントを寄せていただいたので、この分科会としても改めて市民の皆様にお礼を申し上げ、敬意を表したい。

・このパブリック・コメント手続の実施結果の説明は、考え方はわかったが、計画でどのように生かされたかというのは、もう一つわからなかった。

## 【議題2】

- 事務局から、資料3、資料4に基づき、「大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)」からの修正箇所及び修正内容について説明。
- 参考資料3に基づき、「平成27年度介護報酬の改定」について説明。
- 参考資料4に基づき、「第6期介護保険料」について説明。

(主な意見等)

- ・介護予防ポイント事業について、ボランティア活動を活発にする際の仕掛けとして、ボランティアポイントがあるから活動するというのではなく、活動する時の効果が非常に実感できることや、活動に関する企画に自分自身も参画し、自律的に活動できるという方が活動に対するモチベーションも上がる。ほかの自治体でもしていることが大阪市にはないのかとおっしゃる方もいらっしゃるので、取り入れてもいいと思う。
- ・最初に実施された自治体ではそれほど効果が上がらなかったという実態がある。コーディネートする人は非常に大変で、非常に高齢な方が来られたり、認知症の方が来られたり、ボランティアしたいと言われた時にお断りしにくく現場が非常に混乱するという事で、いかなるものかという研究実態も出ている。
- ・実施方法によっては可能性が開けるのではないかと思う。ポイントというのは疑似通貨であり、メンテナンス、運用には大きな責任が伴うので、一度に大阪市全域に広げるのは無理だと思う。小さく実験する価値はあるかもしれないが、もう少し緻密に実現可能性を検証していただきたい。
- ・介護予防ポイント事業の実施場所は福祉施設等、とありますが、地域の中で町会や地域活動協議会の担い手がいない。お金を出して福祉施設ですと云ったら、ますます地域の担い手がなくなり、どんどん地域が崩壊していくのではないかと思う。
- ・ボランティア活動をし、得たポイントを換金できると言い切ってしまうと、あとで負担になるかもしれないので、換金という表現は避けた方がいいと思う。
- ・ボランティアの受け入れについての意見があったが、施設は要介護3以上の方の受け入れのみになるので、2年後に始まる日常生活支援総合事業の生活支援、イメージ的には要支援の方、軽度の方のお手伝いの方がいいのではないかと思う。
- ・介護予防ポイント事業に関して、非常に先駆的な気持ちは応援する。これに伴い、24区のボランティアセンターを徹底して応援してほしいと思う。応援する体制がないと介護予防ポイント事業もうまくいかない。1年目で頓挫しないためにも、全体でボランティア精神を上げるようなことをしないといけない。予算も必要だが、むしろ協力が必要であるので、ボランティア活動の積極的推進を図っていただきたい。
- ・社会的、一般的に通用する換金、お金もあるが、地域だけに使われるお金、地域通貨というものもあり、イメージーションを広げて検討するといいと思う。最初からボランティアを主体にするのは絶対に無理で、企業が入ってこられないとだめだと思う。いわゆる行政的なボランティアではなく、しかも市場の企業でもない、中間の形態のものが

たくさんある。

・介護報酬の改定に伴って予算も減になるが、現場の施設等のご意見は聞いているのか。納得していないのに、一方的に計画を進めるとするのは、国の手先ということになる。国が決めたから受けてくれと市は言うと思うが、そうであっても、市にお金があれば減らさなくてもいいということがあるかもしれない。

・保険料に見合うサービス等があるようにしないと、制度は崩れていってしまう。それから健康増進と地域のボランティアな心と仕組みをつくるということに、市としてお金を出さないといけない。

### 【議題3】

○事務局から、今後のスケジュールについて説明。